



都市と地域の人をつなぐ

里都(さと)プロジェクト

第10回・里都づくりフォーラム開催レポート

【開催日:2012年10月6日(土)】

都市と地域の人をつなぐ
里都プロジェクト

「里都(さと)プロジェクト」について

里都(さと)プロジェクトとは、
「都市」と「地域」との新しいつながり方・関わり方を、実践から学び、考えていくプロジェクトです。

「持続可能な幸せを感じる社会づくり」、重要なキーワードだと思います。
この新しい社会づくりのためには、「都市」と「地域」との新しい関係性を模索し、先行事例に学び、育んでいくことが重要ではないかと考えています。

そこで里都(さと)プロジェクトでは、
「様々な地域で、都市と地域をつなぐ活動を行っている方々」と、
「都市に住み、地域との縁をつくりたいと考える方々」との出会いの場をつくり、
お互いが学びあい、双方にとって新しい関係性を培うきっかけづくりに取り組んでいきたいと考えています。

都市生活者



都市と地域をつなぐ活動を行っている方々



地域生活者



【里都プロジェクト】

- ・コアメンバー: 大木浩士、有福英幸、濱谷玲子
- ・主な活動内容: ネットワークづくりフォーラムの企画運営、WEBサイト等による情報発信、地域体験ツアーの企画運営、など
- ・WEBサイト: <http://www.satopro.jp/>
- ・お問い合わせメールアドレス: info@satopro.jp

第10回・里都づくりフォーラム 開催概要

■テーマ： 地域通貨体験シミュレーションゲーム

■ナビゲーター： 加藤久人(かとう ひさと)さん

■開催日時： 2012年10月6日(土) 13:00~17:00ごろ (開場 12:40)

■開催場所： 株式会社シータス&ゼネラルプレス 5階会議室

■参加者： 30名

=====

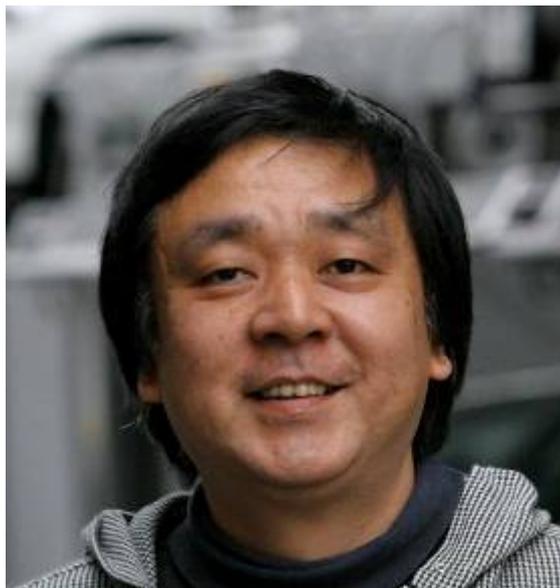
◎加藤久人(かとう ひさと)さん

NPO トランジション・ジャパン理事

=====

1957年東京生まれ。立教大学文学部フランス文学科卒業。

株式会社バショウ・ハウス主宰。環境、エネルギー、気候変動、リサイクル、ローカリゼーションなどに関する執筆活動を行っている。著書に『えこよみ ecoyomi3』など。



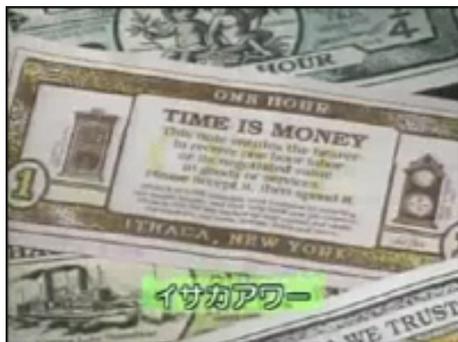
オープニング

参加者は30名。冒頭、「里都プロジェクト」発起人の大木から、「プロジェクト設立の背景」について説明をさせていただき、自己紹介の時間を設けました。



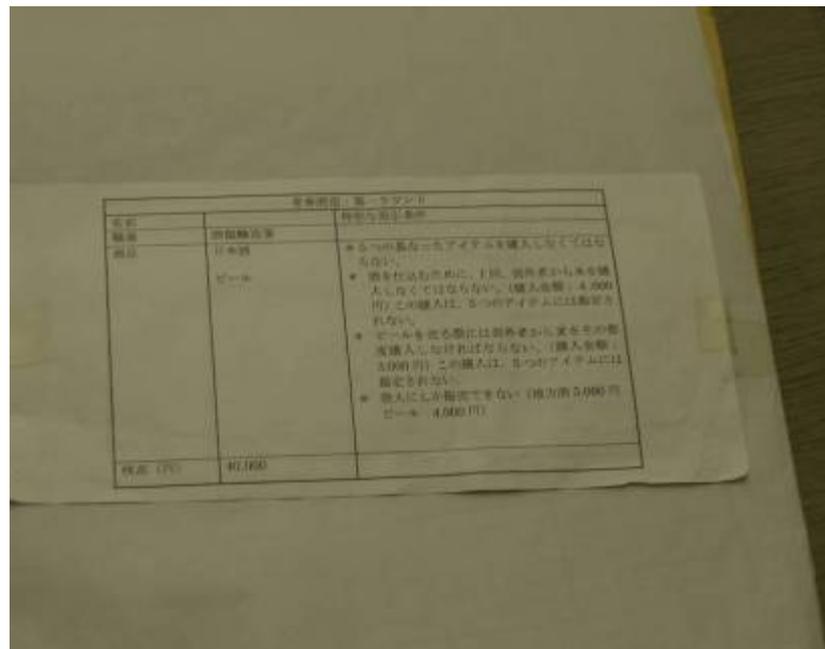
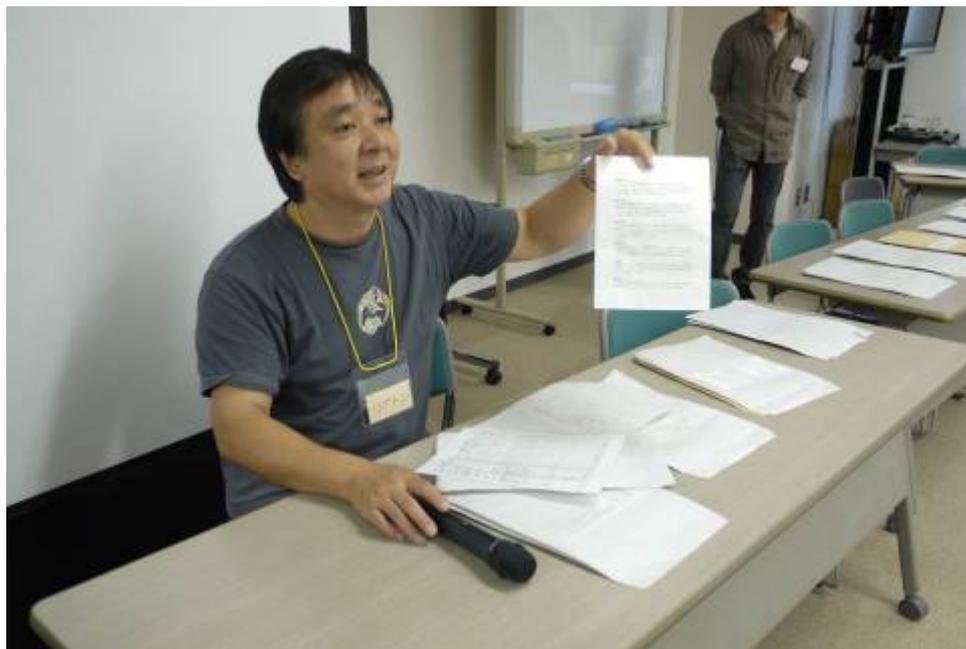
「エンデの遺言」上映

1999年5月に放映された「エンデの遺言 ～根源からお金を問うこと」の上映会を開催しました。
エンデからの問題提起、そして各地の「地域通貨」の取り組みが紹介されました。



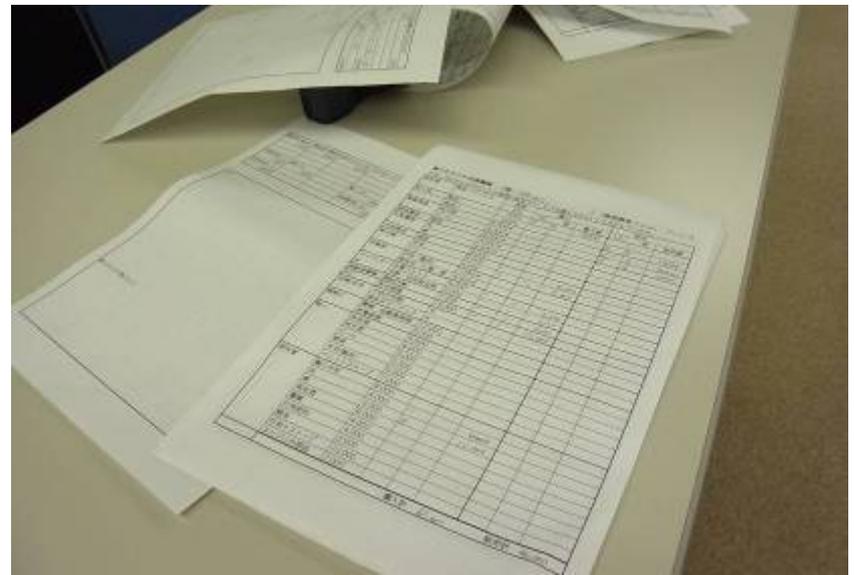
「地域通貨体験ゲーム」開催

加藤久人さんのナビゲートのもと、「地域通貨体験ゲーム」を開催しました。参加者は15の職業にわかれ、それぞれの職業に与えられた条件に従い、買い物ゲームを行います。



「地域通貨体験ゲーム」開催

ゲームは2回行います。1回目は地域通貨を使わない取引。2回目は地域通貨を交えた取引です。





「地域通貨体験ゲーム」開催

2回目に登場する地域通貨「FOOD」。取り引きが大きく変わります。



振り返り

2回のゲームが終了。最初に地域にあった資産は9万。1回目のゲームでは、その資産は取り引き(売買)を通じて大幅な赤字になってしまいました。そして2回目、地域通貨を活用し地域住民同士の取り引きが行えるようになったことで資産は大幅なプラスに転じました。



振り返り

参加者の皆さまからそれぞれの感想をいただき、その後質疑応答の時間を設けました。

限られた時間ですべてを理解することは難しいですが、「地域通貨」というツールを使った新たな可能性を感じることができました。

※次回の里都づくりフォーラムでは、地域通貨の取り組みを続けて10年。長野県上田の「地域通貨・蚕都くらぶ・ま～ゆ」をご紹介します予定です。

